

チーズ市場の状況について

国際市況

歴史的な米ドル高、中国需要の不確実性、肥料やディーゼル油の高騰、国際ロジスティックスの崩壊、ウクライナ情勢、飼料高騰、各国のインフレ等、過去に想定できないような状況が世界の市況へ影響を与えている。

株価の乱高下、リセッションが更に広がる中、先々を見通すことは非常に困難であるが、全体として、乳製品の価格はこの秋冬に向けて更に上昇していくものと思われる。乳製品の主要な輸出国である、米国、オセアニア、欧州の生乳生産量はコスト高を背景に酪農家による更なる投資意欲が低く収入も見込めない為、生乳生産量は非常に限られている。

中国でのコロナ政策が緩和され、同国の需要が回復する一方、欧州、米国での猛暑も見込まれ、国際市況は更にタイトな状況に向かうことが予測されている。

海外ロジスティックスの混乱は2022年末まで継続するものと予測され、一部の国では不適切に在庫の加増、加減がおきるものと見込まれている(米国乳製品が米国港湾地区での混乱が原因で、適時、アジア/東南アジアへ輸出されていない状況が一例)

このような不透明な世界市況の中、安全資産としての米国ドルは20年来の高値で推移し、インフレ高と地政学的な不安定を背景に、米ドル高は当面継続するものと予測される。過度なドル高は一方で、EU、オセアニアの乳製品価格に競争力を与えることにもなりうる。

ロシアのウクライナ侵攻や国際ロジスティックスの崩壊による食糧不足の中、生乳生産量も各国で低迷している。信じがたい程の飼料価格の高騰により、酪農家はその使用を可能な限り控えており、米国、欧州での作物の生育が限定的となっている。更にこの食糧不足の影響により、一部の国では禁輸措置をとるようになってきている。ウクライナはひまわり油、小麦、オーツ麦、牛の輸出を限定し、ロシアは肥料、砂糖、穀物の他国への輸出を禁止している。インドは最近、小麦の禁輸措置を発表、インドネシアはパーム油の先々の輸出を禁止、トルコはバター、牛肉、ラム肉、山羊肉の輸出を中止、エジプトは食用油、トウモロコシ、小麦の輸出を禁止している。

EU

欧州はこの夏、猛暑で乾燥した気候が予報されており、既に土壌中の水分が乾いているところが見受けられている。生産コストの急騰の影響により、酪農問題も懸念されている。この旱魃への対応により更に生産コストが上がっている状況。この数か月、乳価は徐々に上がる一方、この値上がり分では飼料、肥料、エネルギーコストを賄いきれていない。

2022年3月の生乳生産量は、フランス-1.3%、オランダ-2.5%、ドイツ-1.5%と減少が続いている。

ドイツでは、2月の乳価は44セントユーロ/kgであったが、実際、生乳生産に掛かるコストは、53セントユーロ/kgまで上昇している。フランスはエネルギーコストが30%程上昇、また肥料コストは80%上昇している。イタリア、オランダでは、飼料価格の高騰により、乳牛をトサツセざるを得ない状況。イタリアのロンバルディア地方にて200戸の酪農家に行った調査によると、生乳生産コストは前年に比べ13セントユーロ/kg程高くなっている。国際的な脂肪の取引価格が高騰しており、バターが歴史的な高値を付けていることから、製造社は積極的にバター/脱脂粉乳を製造、結果としてチーズの製造に充てられる乳量が大きく減少しており、EU域内のチーズの在庫も引き続き低水準で推移をしている。7-9月積みの交渉が一服しつつあるこのタイミングで、10-12月積みの交渉を始めたいお客様が出てきつつあるものの、上向く傾向がない生乳生産量と、ウクライナ情勢による先行き不透明な状況から、積極的に価格設定ができない状況となっており、現時点で多くのサプライヤーがQ4積みの価格を出せないでいる。

現在主要サプライヤーのオファーは、7-9月積みの価格がEUR5,700-5,800/MT CFR Japan レベルで交渉が行われており、10-12月積みの価格は前述の情勢が好転しない限り更に上昇してしまう可能性が非常に高いと考えております。このような状況を反映して、EU産チーズの価格は昨年の1月から上昇を続けている状況であり、2021年1月の時点と比較すると現時点で提示されている価格は約210%程度価格が上昇している。

オセアニア

オセアニアの2022年7-12月積みの価格交渉は、妥結した貨物では前期比20%程度の値上げで決着となっている。これで3期連続の大幅値上げとなり、2021年7-12月積みと比較をすると約30%の価格上昇となっている。

価格上昇の背景としてはEUと同様にエネルギーコストの高騰に加えて、生乳生産量が前年比約5%減という低い水準で推移していること、更には東南アジア諸国・中国からの引き合いが好調であることが挙げられている。

Fonterra 主催のGDTでは大半が中国のバイヤーによる買付ということもあり、上海のロックダウンが始まってから平均取引価格は一時的に下がったものの、ロックダウンは6月頭から既に解除となっている。この解除に伴い経済活動が徐々に復旧すれば、中国からの買いが戻るのではないかとの見方が強く、そうすれば乳製品の相場は今後更に上昇するのではないかと懸念している。

① ニュージーランド

同国の乳牛頭数は2014年-15年のピーク時、約500万頭であったが、2020-21年では2.3%減り、489万頭となっている。一方、一頭当りの生乳生産量は5.3%と増えている。2022年3月の生乳生産は乳固形分ベースで前年同月比、1.5%の減少となった。間もなく乳

シーズンを終えるが、記録的な乳価高とは裏腹に、気候不順により生乳生産量は落ちている。今後、オセアニアの生乳生産量が増産されることは見込まれにくく、ニュージーランドの乳価は高いレベルで推移するものと見込まれる。フォンテラは 21-22 シーズンの集乳量を、前年比 3.8%の減少になるものと予測している。

② 豪州

19-20 年度の 2020 年 2 月には、豪州の主要な酪農地域で厳しい旱魃となり、その後の年も含めて生乳生産や農産物の生育に大きな影響を与えた。

20-21 年度、21-22 年度は広範な地域での降雨とコモディティ製品価格の上昇が追い風となったが、牛肉や羊肉の市場が活況で酪農/生乳生産との競合が激しくなった。

主要な酪農地域であるヴィクトリア州とタスマニア島では、21-22 年度の天候は不安定で、総じて湿潤で冷涼な春季に続き例年より降雨量が少ない夏季であった。

生乳生産は安定し酪農家の利益率も良好な状況ではあるが、増産のペースは芳しくない。乳価は過去最高の水準ではあるが水以外の生産コストが増加しており、牛肉の価格もまた過去最高水準に達し、酪農家の事業売却や労働力の不足が生乳生産増の抑制要因となっている。

Dairy Australia とラボバンクは 21-22 年度の生乳生産は 3%減となると予想を下方修正している。

アメリカ

米国

CME Spot Market

	終値	前週までの平均	前月比	前年比	過去5年間の平均
ブロックチェダー：	\$5,210	\$5,055	-1.70%	29.50%	\$3,887
バレルチェダー：	\$4,730	\$5,235	-0.50%	37.40%	\$3,571

2月のチェダー生産量は堅調に推移したが、3月はモザレラの生産に生乳が仕向けられた為、生産量は落ち込んだ。この為、CMEスポット市場でのチェダーの価格を高値に押し上げた状況。

また、ここ数週間、米国国内、海外市場いずれにおいても、米国産チェダーの需要は堅調で、価格を押し上げた状況が続いている。一方で、季節要因としてアメリカンタイプのチーズ在庫が減っていく中、需要が供給を上回ったことも価格高の要因として揚げられる。2022年下期の生乳生産量は回復に向かうものと予測されているが、世界規模で生乳生産量は低迷するものと想定され、米国乳製品価格の下支えとなり大幅な価格下落は見込まれな

い。また、引続きドル高基調が見込まれる為、海外のバイヤーへ魅力的な価格が提示される可能性が低い。

相対的に優位性のあったアメリカ産チーズの交渉が例年に比べてかなり前倒しとなってしまった結果、2022年の年内積みはほぼ完売となっており、2022年6月時点で2023年4月積みの交渉が行われる異例の状況となっている。

また、2022年4月の生乳生産量は前年同月比1%減となっており、6ヵ月連続で前年同月を下回っている。一方でチーズの輸出量は好調となっており、2022年4月のチーズ輸出量は前年同月比2.4%を記録しており、これは過去2番目に多い輸出量となっている。生乳生産量は高騰するエネルギーコストを背景に今後も低水準で推移する見方が強く、好調な輸出量がチーズの在庫量減少を招く結果、相場価格に圧をかけることとなり、現時点で相対的にEUやオセアニアに比べて多少の優位性はあるものの、以前のような大きな価格差が生まれる可能性は非常に低い見込み。

②為替相場の悪化（円安）

2020年3月～2022年6月迄にドル、ユーロ共に円安傾向となっており、
特に対ユーロの円相場は厳しい状況になっている（上段：ドル、下段：ユーロ）



上段： — 単純移動平均(5) — 単純移動平均(25) — 単純移動平均(50)

総論

①コロナが全く解消されず、状況は悪化する一方で、週を追うごとに海外サプライヤーからの価格が上昇。上昇しているにも関わらず、需要は減っておらず、世界各国の争奪戦にもなっている。争奪戦になっている要因としては、欧州各国での生乳生産量の低下が主な原因。酪農家へ支払われる乳価は日に日に高くなっていくが、飼料や燃料代などのコスト上昇も激しいため現時点での生産量回復は見込めない。

②ウクライナ情勢の影響もあり、エネルギーや飼料の高騰は非常に激しく、各国の酪農家が乳牛への餌が十分に与えられず、乳質や乳量の低下があり、チーズを生産する上で通常以上のミルクが必要となっており、昨年よりさらに乳価が高騰し、先積みの貨物の価格上昇が止まらない状況。週をおうごとに価格上昇中。

③外貨に関しては、大幅な価格上昇が続いている状況で、現時点ではどこまで上昇してしまうかは不明。

2021年1月（積月）と2022年12月（積月）国によって違いはあるが、約190～210%の価格上昇。

④為替も、2022年1月と2022年6月ではドルで約116%、ユーロで約108%の円安となってしまっている。

⑤世界全体的に言われているのが、コンテナ不足による海上運賃の大幅引き上げも値上げの原因の一つ。

上記原因により下記の通り大幅な製品価格の引き上げとなっている。

コンテナ不足による物流の遅れを見越し、ブローカーなどが必要以上に在庫引き上げで買い込んでいるためコンテナの争奪戦になっている。

以上